

最新情報を手に入れよう!

▶ 経済学部ホームページ

URL www.kansai-u.ac.jp/Fc_eco/

経済学部のさらに詳しい情報、最新のトピックスを知るには、「経済学部ホームページ」をご確認ください。
教員が経済学について解説している「教員エッセイ」など、わかりやすく学びの魅力を紹介するコンテンツが充実しています。



▶ 関西大学入学試験情報総合サイト Kan-Dai web

URL <https://www.kansai-u.ac.jp/nyusi/>

入試関連イベントの情報や最新情報など受験生を応援するコンテンツが満載!
イベント情報以外にも、研究紹介、学生インタビューなども随時更新しています。



パソコン・スマートフォン
どちらからでも
アクセスできます。

1 イベント情報

入試イベントの詳細を掲載!



オープンキャンパスや入試説明会など、入試イベントの最新情報と参加メリットをいち早くお伝えします。受験生は必見!

2 入試情報

関西大学の入試日程やポイントをチェック!



学部別・日程別などで入試情報をわかりやすく紹介します。入試シーズンは志願者・合格者数速報を掲載。

3 キャッチ! Kan-Daiニュース

関西大学の最新ニュースをお届けします。



関西大学に関するニュースをまとめました。最新情報をキャッチしよう!(隔週更新予定)

4 関西大学入試センター×LINE公式アカウント



入試関連イベントや関大生の学生生活など、役立つ情報をお届けします。2次元コードを読み取って、「友だち追加」をしてください。



5 動画で見る関西大学



入試センター公式YouTubeでは大学紹介ムービーのほか、研究やキャンパスの魅力などさまざまな動画を見ることができます。

6 関西大学入試センター公式Instagram



各種イベントやキャンパス風景などを切り取った写真・動画を渡し、関西大学の魅力を発信します。



大阪(大阪梅田)からのアクセス

阪急電鉄「大阪梅田」駅から、「北千里」行で「関大前」駅下車(この間約20分)。すぐ。または「京都河原町」行の場合「淡路」駅下車。「北千里」行に乗り換えて「関大前」駅下車。

京都(京都河原町)からのアクセス

阪急電鉄「大阪梅田」行で「淡路」駅下車。「北千里」行に乗り換えて「関大前」駅下車、すぐ。

Osaka Metro利用のアクセス

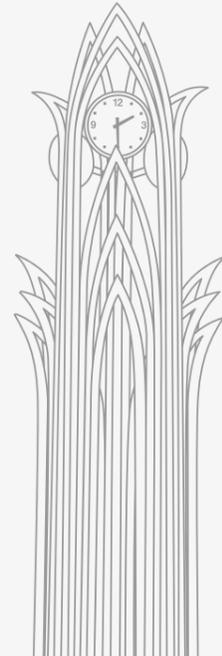
Osaka Metro堺筋線(阪急電鉄に相互乗り入れ)が阪急電鉄「淡路」駅を経て「関大前」駅に直通しています。

新幹線「新大阪」駅からのアクセス

JR「新大阪」駅からOsaka Metro御堂筋線[なかもず(方面)]行で「西中島南方」駅下車。阪急電鉄に乗り換え「南方(みなみかた)」駅から「淡路」駅を経て「関大前」駅下車(この間約30分)、すぐ。

大阪国際(伊丹)空港からのアクセス

大阪モノレール「大阪空港」駅から「門真市(かどまし)」行で「山田」駅下車。阪急電鉄に乗り換え「関大前」駅下車(この間約30分)、すぐ。



関西大学経済学部は 2021年度よりカリキュラムを リニューアルします!

学部長からのメッセージ

学生のニーズにあった多様な学びをサポートします

関西大学経済学部では2021年度入学生よりカリキュラムを一新します。具体的な特徴として、専門科目を導入・基本・展開科目と分類し、経済学を無理なく体系的に学べるようにしました。これにより1年次は比較的身近な教養科目、語学、専門科目をバランスよく履修し、その後に専門科目を深く学べるような授業体系となります。次に、3・4年次に履修するゼミナールや卒業論文を、授業で身につけた知識や技能を生かす実践科目として位置付けました。教員や他学生との密接な交流を通じて、自らの思考力を高めると同時に社会で活躍するために必要な協働する力を養います。海外留学や資格取得などにも挑戦しやすくなり、学生一人ひとりが希望する多様な学びをサポートする体制を強化しました。

経済学部長 野坂 博南 教授



経済政策コース

財政、社会保障、雇用、地方創生など政府活動に関わる問題を考察します。消費税、年金、東京一極集中の是正など政府の政策は個人の生活、経済全体に大きな影響を及ぼします。また、環境問題など市場に任せていては解決が難しい問題に対しては政府の役割が欠かせません。このようなさまざまな社会問題に対処する政府の経済政策を学びます。

学びのキーワード

- 少子高齢化
- 年金
- ふるさと納税



行政の多様な経済活動を学ぶ中で、 問題の背景から考えるようになりました

高齢化社会における社会保障やその財源確保につながる財政・金融政策など、行政の経済活動を中心に学びます。例えば「経済政策」という講義では、身近な出来事から経済と行政の関係、モノとヒトの流れなどを学んでいます。先日は、携帯電話の“2年縛り”が経済に与える影響と、政府が規制を行う際の難しさについて教わりました。このコースで学ぶなかでは、取り扱うテーマのことだけを考えるのではなく、その背景にある社会の状況や歴史的な経緯を踏まえて、問題を多角的な視点で捉える力が身に付いていると実感しています。

4年次生 松浦 航大さん

歴史・思想コース

経済や社会思想が発展してきた過程を歴史的に考察します。例えば、大阪には江戸時代、世界に先駆けて先物取引市場を整備した堂島米会所がありました。現代の経済社会は歴史の上に成り立っています。過去を知ることで、現代経済の問題を解決するための新たな糸口を模索します。

学びのキーワード

- 日本の近代化
- 資本主義
- 植民地



経済制度を理論的に解明し、 応用範囲が広い知識を学べる点が魅力です

なぜお金は価値があるのか、お金は限られた資源なのかなど、社会と経済の「当たり前」を問い直しながら学んでいます。授業で経済学の主流派と反主流派の多様な考え方を学んだことによって、現在の日本の経済政策がどのような考えのもとで進められているのかを理解し、幅広い視野で捉えられるようになりました。アベノミクスが失速した今、日本が内需を活性化させる方法は何か、また米中の覇権争いの間で日本はどう生き残ることができるかなどを考えています。このコースで学ぶことで、経済ニュースに対する感度が高まったと感じています。

4年次生 福島 康平さん

産業・企業経済コース

企業はビジネスの現場においてモノ・サービスを提供したり、労働者を雇用したり、設備に投資したりと経済活動において重要な役割を果たしています。ビジネスの現場で起きているさまざまな現象の本質を読み解くために、企業の行動原理やビジネスデータを分析・活用する方法を学びます。

学びのキーワード

- マーケティング
- 地域経済の活性化
- キャッシュレス



企業と人の経済行動を、 理論とデータを用いて解明します

企業の戦略的行動や労働者と企業の関係などについて論理的に考えます。私は、企業利益とCSR(企業の社会的責任)の関係をテーマに研究を進めています。業界団体による規制によって、企業が環境保全を目的としたCSR活動を行うことで生産量を抑制した場合、市場の供給量が減少するために価格の引き上げが可能となるという仮説を立て、CSRに積極的な企業の財務業績の分析を行っています。研究を通して、日常のさまざまな事柄に経済的な裏付けがあることを実感しています。

4年次生 野澤 笙子さん

国際経済コース

ヒト・モノ・サービス・カネが国や地域を越えて移動するグローバル社会を考察します。モノの移動を考える国際貿易、カネの移動を考える国際金融など世界経済の仕組みを理解するとともに、経済発展著しい中国・インドなど個別の国の経済事情を学びます。

学びのキーワード

- 貿易摩擦
- SDGs(持続可能な開発目標)
- 移民・難民



世界中の国や地域を対象に、 社会や経済の問題を深く掘り下げます

あらゆる国や地域を対象に、興味がある分野について経済学の視点から掘り下げることができます。ゼミでは「アフリカにおける経済発展と汚職」について研究しています。最初はアフリカに対してわずかな知識しかなかったのですが、国別にGDPや投資状況などを調べた結果、アフリカ諸国でサービス業が発展しない理由が賄賂にあると考察。解決策を政策提言としてまとめ、学内外のゼミナール大会などで発表しました。このコースで学ぶことで、今起こっているさまざまな問題を、歴史や社会事情などの背景から考えるようになりました。

4年次生 檜木 良子さん

経済学部 ってどんなところ？

現役学生による座談会

経済学と聞くと、なんとなく難しそう？

実際に経済学部で学ぶ先輩にいろいろと聞いてみました

Q1 なぜ経済学部を選んだ？



世の中の仕組みを知るために
経済学が役立つと思った

京野 大学卒業後、社会で自立して生きていく上で、経済学は必ず役立つだろうと思いました。関西大学を選んだのは、想像していた楽しそうな大学のイメージに近く、憧れたからです。

柳木 世の中の仕組みを学びたいと思い、経済学部を選びました。高校では理系クラスだったこともあり、数学の知識を活用できる点も魅力でした。

大蔵 社会で役立つことを学びながら、学部や出身が異なるさまざまな人と交流できると考え、選びました。また大学生活を人生で一番充実している期間にしたいと思い、入学しました。

石井 なるほど、皆さんは経済学部は「社会に役立つ知識が学べる場所」というイメージをもっていただんですね。それでは実際に経済学を学んでみて感想はいかがですか。

Q2 経済学のおもしろいところは？



幅広く学んだ経験が
自分の専門分野に生きてくる

京野 1年次にミクロ・マクロ経済学の基礎を学んだことで、世の中をどのような視点から捉えることができるかという方法論を修得できました。その視点をもとに、ゼミでは具体的なテーマに取り組んでいます。

柳木 現実の経済事象と向き合ってみると、経済学の理論で全てを説明することはできないことが分かってきました。それでも、問題に対するさまざまなアプローチ方法を学ぶことは面白いですね。数学を使ったデータ分析にも取り組んでいます。

大蔵 経済学には数学の知識が必要、といったイメージをもっている人もいますが、数学はあくまでツールの一つ。経済を歴史の視点から考えたり、国際経済との関わりを調べたりと、数学が苦手な人でも活躍できるフィールドがたくさんあります。

石井 そうですね。数学が得意な人でも世の中の動きを理解していなければ、問題を分析・考察して、分かりやすくプレゼンテーションすることは難しいでしょう。経済学は非常にすそ野が広い学問分野です。関西大学経済学部には50以上のゼミがあるので、自分の興味に合わせて自由にアプローチを選べることも特徴ですね。



Q3 特に興味をもっている分野は？



企業の経営状況をイメージではなく、
具体的な数字から理解する

柳木 経済学の理論の中でも、ゲーム理論について関心が高いです。ゲーム理論は、お互いに利害関係のある複数の相手がいる時に、双方の利害を考えて最適な戦略を取るための考え方です。相手側の視点に立って考え、駆け引きを学べるのが面白いですね。飲食チェーン店の価格競争など、世の中で起きている実際の出来事に対する理解も深まりました。

大蔵 株式や債券、企業の財務について、具体的かつ実践的に学んでいます。例えば、企業の経営状態を判断する指標として「財務諸表」というものがあるのですが、企業の知名度や広告のイメージではなく、客観的な事実に基づいて検討することができるようになりました。

石井 経済学を学ぶと、自分の日常と経済全体とのつながりを実感できるようになりますね。商品の価格はどのように決まるのか、消費者として騙されないためにどうすればよいかなど、企業や自治体の経済活動の裏側にある考え方が分かってくるので、毎日の生活や就職活動などにも学んだ知識が生きてくると感じます。

大蔵 そのことを実感したのが、企業のインターンシップに参加した時でした。財務諸表の数字を見ることで経営状態を理解でき、他の参加者が気づかなかった点に注目し、議論を展開することができました。

京野 私はゼミ活動の一環として、地元の吹田市と連携しながら環境問題の課題解決に取り組んでいます。近年はプラスチックをはじめとする海洋ゴミの問題が注目されていますが、身近にできる対策として、リサイクルボックスにゴミを分別するとお金が戻ってくるデポジットシステムを提案しました。メディアからの情報をそのまま信じるのではなく、その問題のメリットとデメリットをさまざまな角度から考えられるようになりました。

石井 皆さんがそれぞれ自分の興味をもったテーマを掘り下げ、社会や経済とのかかわりを俯瞰的に捉えられていること、自分自身の成長につなげていることが、経済学部の学生らしいと感じます。社会に出て活躍される日が楽しみですね。

今回座談会に参加してくれたメンバー



4年次生
柳木 雄登さん



4年次生
京野 真依さん



4年次生
大蔵 一真さん



産業・企業経済コース
石井 光 教授

京野 私は統計学を中心としながら、財政や金融、労働など経済学の分野について学んできました。現在は環境問題について研究しているのですが、今までに受けてきた多様な講義で得た知識や考え方を生かして、ゼミのメンバーと共に解決策や改善策を考えることができます。

大蔵 ゼミ活動は、学んできたさまざまな知識をアウトプットできるから楽しいですね。今年は学内ゼミナール大会で1位を獲得することを目標に研究や準備を続けてきたのですが、グループの仲間と手分けして情報を集め、議論を重ねていく過程で、自分が入学時よりも成長できているなど実感できました。

石井 さまざまな講義を受けることで自分の興味の扉を開いたら、その興味をゼミで深く掘り下げてほしいですね。仲間と議論しながら自分の意見を確立する経験は、社会に出てからも必ず役に立ちます。また、社会の中にある問題を見つける力も、ゼミ活動を通して身に付けることができると感じます。

現代は、ヒト・モノ・サービス・カネ・情報が国境を越えて行きかいます。目まぐるしく変わる社会情勢を的確に把握するためにはグローバルな経済的視点が必要不可欠です。その第一歩となるような、学部独自の留学プログラムを経済学部では展開しています。

経済学部独自の留学制度 GoLDプログラム

ビジネスの市場が国境を超えて広がる昨今、世界で活躍できるスキル・感覚を身に付けた人材が社会で求められています。経済学部では、2009年に学部独自の留学プログラムであるGoLDプログラム(Global Leadership Development Program)をスタートしました。一般的な留学と同様に、語学力の向上が目的となるのはもちろんですが、具体的な特色として以下が挙げられます。

外国語を用いて経済学を学び、経済学に関する知識やスキルを身に付けます

現地企業等へ訪問し、他国のビジネスの現場に触れることができます

本学と連携している現地大学にて講義を受け、現地学生とディスカッションができます

現地大学の学生との交流や多様なアクティビティを通じ、異文化社会を体感します

また現地に精通した教員が引率し、留学自体が初めての学生に対するサポートも手厚く行います。

留学先実績

30～40日間のプログラム

ニュージーランド／オークランド工科大学

- 英語でニュージーランドの社会や経済を学び、ビジネス英語を学びます
- ニュージーランド航空本社でキャリアガイダンスを受講します
- ホームステイを通じ、日常的に英語に触れて生活できます

オーストラリア／アデレード大学

- 少人数クラスで集中的に英語を学び、英語力を飛躍的に向上できます
- 関心のあるトピックに対しプレゼンを行うことで自身の考えを英語で相手に伝える力を養います
- ホームステイを通じ、海外の生活を体験します



7～10日間のプログラム

タイ／パンヤピワット経営大学

- 英語による講義を通じ、タイの経済や文化など、タイに関する幅広い知識を学びます
- 講義内容についてディスカッションを行います
- タイの現地企業や日系企業を訪問し、ビジネスの最先端に触れます

ベトナム／ダナン大学

- 英語による講義を通じ、ベトナムの経済や文化など、ベトナムに関する幅広い知識を学びます
- ベトナムの巨大ゴミ埋め立て場を訪問したり、現地学生とディスカッションを行います

台湾／国立高雄科技大学・台湾大学・政治大学

- 現地学生と双方の国の文化、社会についてディスカッションを行います
- 日本語、英語、中国語を使って、考え・調べ・まとめるプレゼンテーションスキルを養います

中国／復旦大学

- 現地大学での講義や現地在住の日本人ビジネスパーソンから講演を聞き、中国の生きた経済事業を学びます
- 上海の商業施設、日系企業訪問等を通じ、中国経済を多方面から考察します

参加学生 × 引率教員

4年次生
坂本 祐香さん

GoLDプログラムの魅力とは？

国際経済コース
岡田 啓介 准教授

GoLDプログラムに参加したきっかけは？

- 坂本** 大学生になったら留学したいと考えていました。経済学部に入學すると決めた理由も、このプログラムがあると知ったからです。
- 岡田** 坂本さんはオーストラリアのアデレード大学で、5週間のプログラムに参加しましたね。
- 坂本** はい。ホームステイができることと、アデレード大学で英語を学ぶことが魅力でした。長期休暇を有意義に過ごそうと考えて、2年次の終わりに参加しました。
- 岡田** 英語を学ぶだけでなく、海外の学生と経済や文化についてディスカッションし、幅広く学ぶことも「GoLDプログラム」の特徴です。坂本さんはどのようなテーマについて話し合いましたか。
- 坂本** 先進国と開発途上国との関係や人口問題など、グローバルなテーマを経済学の視点から学びました。授業をただ聞くのではなく、参加して自分の意見を伝える機会がたくさんありました。現地の人にインタビューをするという課題もあり、特に印象に残っています。

プログラムで特に印象に残っている内容は？

- 坂本** 現地の引率の方と17人の参加者で、アデレードの近くにあるカンガルー島へ1泊2日の旅行をしたことです。携帯電話の電波が圏外になる環境で不安もありましたが、野生動物を探したり、自炊やキャンプファイヤーを楽しんだり、とても楽しい思い出になりました。
- 岡田** 引率の方ともいろいろな話ができるから、オーストラリアの文化に触れるいい機会になったでしょう。
- 坂本** オーストラリアの会話表現を学ぶと同時に、引率の方に日本語をレクチャーすることで、お互いに文化交流ができてよかったです。
- 岡田** その他にも、週末にアデレード大学の学生と植物園やビーチに出かけたり、地元のお祭りに参加したりと、充実した内容でしたね。
- 坂本** 平日は午前中で授業が終わるので、クラスメイトと課題に取り組む日以外は、アデレードのさまざまな場所を訪ねました。街の人々は、おだやかで気さくに話しかけてくれる方が多く、コミュニケーションを取ることが楽しかったです。
- 岡田** そういった経験は大切ですね。教室での学びと並行して、日本とのさまざまな違いを街で感じてほしいと思います。



参加して変化したこと、成長したことは？

- 坂本** 失敗を恐れず、積極的にコミュニケーションを取れるようになりました。最初はホストマザーの話が理解できなかったし、自分の思いをうまく伝えることもできなかったのですが、ましがえてもいから言葉にして伝えよう意識して過ごすうちに、とても仲良くなれました。
- 岡田** こちらから積極的に話しかけることで、英語表現も相手との関係も良くなると思います。
- 坂本** お互いに信頼関係が生まれたおかげで、プログラムの最後の週末には、ホストマザーと協力してバーベキューを計画しました。ホストマザーと一緒に買い出しなどの準備を進め、当日は他の参加者とパーティーをしました。これも忘れられない思い出です。
- 岡田** オーストラリア以外の国から来ている留学生とも交流できましたか。
- 坂本** 同じ語学センターに通っていた中国人学生と友達になりました。また韓国学生とご飯を食べに行き、お互いの学生生活や趣味について英語で話し合ったりもしました。韓国の大学生はアルバイトをしない人が大半らしく、日本の大学生のアルバイト事情に驚いていました。
- 岡田** 日本では当たり前だとされていることが、他の国では通用しない場合もたくさんあります。同じ世代の人と異文化交流ができることも、「GoLDプログラム」の魅力ですね。
- 坂本** 見るものすべてが新しい環境で、たくさんの出会いと発見がありました。英語学習だけでなく考え方を広げ、人間的な成長につながる5週間になりました。



将来はどんなキャリアを考えている？

- 坂本** 残りの大学生活や卒業後も、多くの国を訪れてたくさんの人々と出会い、その国の文化や価値観を知りたいと思うようになりました。
- 岡田** 1・2年次のうちに留学を経験して、その後の大学生活に対する意識が変わったという人も多いですね。現在も英語でコミュニケーションを取る機会がありますか。
- 坂本** ホストマザーとはお互いの誕生日にプレゼントを贈り合ったり、メールのやり取りを続けています。いつか日本の観光名所を案内すると約束したので、その日を楽しみにしています。また、将来は私が外国人留学生を受け入れる側になりたいと思います。
- 岡田** すばらしいと思います。海外で経済学と英語を学んだ経験を生かして、異なる文化をもつ人々と対等にコミュニケーションを取れる人になってください。



※上記は過去(2018年、2019年)のプログラム実績となります。留学先や期間などは変更になる可能性がありますので、あらかじめご了承ください

地域に貢献する

経済学部では、3年次よりゼミに所属し、少人数で研究内容を深めることができます。各々のゼミでは幅広いテーマを扱っていますが、ここでは地方創生やまちづくりなど、現代日本が抱える問題に多様な方面からアプローチしているゼミを中心に紹介します。

後藤ゼミ

学生のアイデアで 地方産業を次のステージへ



久保田さんに聞きました!

ゼミナール Q & A

後藤先生からのメッセージ

大学の枠を超えた本気の政策提言 プロジェクトが、地域経済を動かします

本ゼミでは、学生を主体とする実践的な政策提言型プロジェクト「SKIMA Project」を運営しています。このプロジェクトは鹿児島県曾於市と連携し、地域産業・経済の発展をめざすものです。学生は毎年、1週間の現地調査を行い、現実の発展・開発課題に向き合いながら考えを深め、問題解決へのアプローチ方法を探ります。市役所、市議会、企業、産業団体、さらには近隣の志布志市や都市市の関係者も巻き込む本気のプロジェクトですから、

学生の言動にはとても大きな責任が伴います。大学の枠を超えた本気の政策提言に対し、実際に自治体が動く。だからこそ、一切の甘えは許されません。

コミットメントに対する自主性・考動力・チーム力が問われ、頭だけではなく体を動かすプロジェクトです。こうしたゼミでの経験を通じて、ダイナミックなグローバル化社会を生き抜くための力を身に付けてもらいたいです。

国際経済コース
後藤 健太 教授

▶ 現地調査やPR支援活動などを通して、地域活性化の方法を探りました

私たちのゼミでは、鹿児島県曾於市と周辺の都市、志布志市において「SKIMA Project」という地域活性化プロジェクトを行っています。2016年から4年間にわたって続けてきた取り組みで、私たちは活動エリアの現状を把握するために、市役所、地元の企業約30社、商工会議所などを訪問して調査を実施しました。また、大阪で催される物産展のお手伝いや、鹿児島銘菓の販売促進活動などを通して地域の方々との関わり、信頼関係を築いています。



▶ 関大生の提言が、地域が変革に向けて動き出すきっかけになれば嬉しいです

アンケートや聞き取り調査の結果をもとに、第1次産業を強みとする曾於市を、他の市や企業と協力して生かしていく「オープンイノベーション」をコンセプトにした提言を行いました。3つの市が連携することでエリア全体として市場での競争力を高め、お互いの課題を補完し合うという内容です。提言を評価・採用するかどうかを決めるのは地域の方々ですが、私たちが経済学の視点から持続的な課題解決を提言することで、地域の活性化に向けて動き始めるきっかけが生まれたらと思います。

4年次生
久保田 さくらさん (後藤ゼミ所属)

ゼミ紹介

宇都宮 ゼミ

地域の血流ともいえる交通から、まちづくりを考えます

▶ 先進的な交通プロジェクトやまちづくりの事例を視察

地球温暖化、少子高齢化、訪日外国人の増加といった現代日本の状況を踏まえ、まちを活性化する方策を考えます。本ゼミの特徴は、交通を切り口にまちづくりを考えること。ゼミ生は自ら各地の視察に出かけ、地元の交通事業者や商店街、役所などを対象にヒアリングを行い、現状把握と分析を進めます。これらのフィールドワークを通して、問題解決能力を身に付けることも重視しています。また夏季休業の期間中には、少し足を延ばしてゼミ生たちと視察旅行を実施。これまで、LRT※(次世代路面電車)の導入でコンパクトシティ戦略を進める富山市や、鉄道会社と連携してまちの活性化を図る福井市などを訪ね、理解を深めました。



※Light Rail Transit

経済政策コース
宇都宮 浄人 教授

本西 ゼミ

自治体が抱える課題を経済的視点から研究、政策を立案します

▶ フィールドワーク主体の調査で実社会と関わる

地方自治体の政策をテーマに、実現可能な政策立案に取り組んでいます。例えば「放置自転車問題」「高齢者の免許返納促進」「保育士の労働問題」など、自治体が実際に直面している課題を選び、フィールドワークを行います。また、子どもの金融教育について研究を進めるチームは、小・中学生を対象に金融に関するミニ講義を行い、社会貢献活動につなげました。

経済学部のゼミで重要なのは、数字で根拠を示すこと。アンケートの実施や関係者へのインタビューを通して集めた独自の情報を冷静に分析して、結果を誰にでもわかるように発信するプロセスを学んでほしいと思います。

経済政策コース
本西 泰三 教授

ディベート & PBL



ゼミナール大会



経済学ワークショップ

経済学部生全員が1年次春学期に履修する「経済学ワークショップ」では、グループで課題解決に取り組むPBL(Project-Based Learning)を導入しています。PBLでは課題解決の方法を自分たちで一から主体的に考え、解決策を発表。グループワークの中で、ノートテイキングやプレゼンテーション、ディベート、レポート作成などの基礎的スキルを身に付けながら、社会で役立つ基礎能力を養います。

少人数クラス制の実践的な学びで、主体的な課題解決スキルを身に付けます



2年次生
河川 喜一さん

ディベートの魅力とは？

参加学生 × 担当教員



経済政策コース
佐藤 雅代 教授

河川 私たちのグループは「関西大学において1回の授業時間を90分から100分に延長し、授業期間を15週から14週に短縮すべきである」というテーマをめぐって、ディベートを行いました。

佐藤 1年次の5月末頃からグループに分かれて考え始めましたね。大学に入って間もない時期なので、同じ学部の友人・知人を増やしてもらうこともねらいです。最初の頃は、グループ内で意見を出し合っても、なかなか話が続かなかったよね。

河川 人前で自分の考えを話すことは、思っていた以上に難しかったです。学生である自分たちにどういったメリットがあるかを考えて「100分では長いから90分のままでいい」などと話すのですが、みんな似たり寄ったりの意見ばかりで、議論が深まりませんでした。

佐藤 ディベートは、現実に行っていないことを真剣に想像するところも面白さの一つ。やってみるメリットと、やった場合のリスクを比較する際に、どういう論拠を持ち出せば説得力が増すかを考えるのがポイントです。

河川 その点に途中で気づいたので、学生の日線だけでなく、教員にとってはどうか、クラブ・サークルや学内の食堂など大学に関係する組織にはどういった影響があるか、と視野を広げて考えるようにしました。

佐藤 河川くんがグループの意見をリードする場面が多かったと思います。準備を進める中で面白さや難しさを感じたことはありましたか？

河川 他の講義よりも私たち学生の主体性が問われる内容だと感じました。他の人との意見の違いを面白いと思う反面、グループとして発表するために意見を一つにまとめる必要があって、「自分はなぜこう思うのか」を言葉にして伝えることの難しさを感じました。

佐藤 ディベートは勝ち負けを問うものではなく、確かな論拠をもとに意見の正当性を主張する訓練ですからね。でも、ディベートを終える頃にはしっかり議論できるようになりましたね。約2か月という短期間で、みんな成長したと感じました。

河川 社会で働くようになると、相手と交渉する場面がたくさん出てくると思うので、入学して早々にディベートを経験できてよかったです。

佐藤 将来、卒業論文を書くためにも、論理的に考え、言葉にする力を1年次から身に付けることには大きな意義があります。この経験を今後のゼミ活動などにぜひ活かしてください。

第55回経商合同学内ゼミナール大会を開催

経済学部・商学部が合同で行っている学術大会です。さまざまなゼミから学生たちがチームを組んで参加し、約1年間にわたって学んできた研究成果の集大成を披露します。55回目を迎えた2019年度は、研究発表部門、プレゼンテーション部門、有志部門に分かれ、経済学部から110チームが参加。年に一度の貴重な機会を生かし、学生間でも積極的な意見交換がなされるなど、大会は大いに盛り上がりました。



参加した
学生の声

社会的に意義深いテーマを取り上げ
調査したデータをもとに発表を行いました

発表テーマ 従業員の副業解禁は企業にとって有益か否か

近年は日本型の雇用制度(年功序列・終身雇用)の見直しが進むとともに、働き方改革によって残業時間が削減され、年間給与が減少すると予想されています。こうした労働者の不安を解消する方法の一つとして、「副業解禁」が注目されています。そこで私たちのグループは、企業が副業を解禁した際の業績の反応を分析し、副業解禁が企業にどのような影響を与えるのかを探りました。

調査は1501社の企業へアンケートを送付し、138社からいただいた回答を基に分析を行いました。副業を解禁している約20社の企業からは、従業員に対して良い影響があったという結果を得ましたが、その他の多くの企業は副業解禁に対して消極的であり、本業への悪影響を危惧していることがわかりました。また、副業の内容や総労働時間の把握など、解決すべき課題も見えてきました。こうした調査結果を分かりやすく伝えるため、資料作りを力を注ぎ、プレゼンテーションの練習を繰り返しました。

その結果、ゼミナール大会で優勝をいただいたほか、日本学生ゼミ大会でも発表を行い、評議員を務める企業の方からより深いお話をうかがうことができました。



▲学内ゼミナール大会のプレゼンテーション部門で優勝しました



▲日本学生経済ゼミナール大会でも決勝に進出しました



4年次生
奥田 祐大さん
(中川ゼミ所属)

ゼミ紹介

北川 ゼミ フィールドワークを通じ、自分の常識を問い直します



歴史・思想コース
北川 亘太 准教授

▶ 現実と向き合い、思考のフレームを再構築する

あるグループは、「世界遺産は過疎地域を救うのか」というテーマで国内のある村を調査しました。世界遺産に登録されてからは村が活性化していると思いましたが、統計を調べると村民の人口は増えていませんでした。さらに現地の方にインタビューし見えてきたのは、観光バスが大挙して押し寄せるようになったものの宿泊する人は少なく、村全体の産業は活性化していないという実態でした。こうして現実と向き合うと、自分のフレーム(常識または思い込み)に自分で気づくことができます。このフレームをこわし、変えていくことで、将来何かを改善したり、新たな政策をつくる際に必要な力を養います。



中川 ゼミ ファイナンス論を通じて日本の経済問題を考えます



産業・企業経済コース
中川 竜一 教授

▶ 社会に出てから役立つ企業金融の知識を習得

「ファイナンス論」と呼ばれる経済学の中で、「企業金融論」という分野を扱います。例えば「わが社はどうすれば銀行からお金を借りられるのか」という課題の解決法や、逆の立場から見れば「どの企業にお金を貸し付ければ地元経済を活性化できるのか」といった、将来に役立つ内容を学びます。ゼミでは金融に特化した新聞・テキストを使って基礎を学習し、証券取引所などの見学も行います。さらにグループ研究、プレゼン大会への参加、卒業論文の作成までを一貫して行うことで、問題解決能力、自己表現能力、文章作成能力を養います。これらの活動を3年次末までに終え、その実績をもって就職活動に臨めるようにしています。



経済学部の学びプロセス

経済学部では、経済学を読み解く基本ツールの確実な習得、論理的な思考力の養成、問題の分析と解決能力の習得をめざしています。1・2年次で経済学の基礎能力を習得したうえで、3年次以降は各々の関心と目的に沿って、4つのコースに分属し、学びを深めます。



※このカリキュラムは2021年度入学生用です。一部科目は変更される可能性があります。

経済学部 学びダイジェスト

学生が主体的に学べる環境が整っていることが経済学部の特徴です。

経済学への興味を高め、4年間を通じ各々の関心に応じた学修をしっかりとサポートします。

1年次 入門的な科目を通して経済学の基礎知識を取得

経済を幅広く学ぶ中で、投資に対するイメージが変わりました

「現代経済入門」の講義では、国内外の経済について幅広く学びます。株式市場について学んだことで、漠然と怖いイメージを抱いていた株式投資が、大学生でもできる身近な資産運用なのだと理解できました。世の中のメカニズムを理論的に理解できる点が、経済学の面白さだと実感しています。今後所属するゼミでは、日本と世界各国の経済がグローバル化によってどのように変化していくのかを研究していきたいです。



2年次生
中瀬 愛未さん

2年次 基本科目を中心に、体系的な学習を実現

知りたいことを掘り下げつつ、海外

高校時代から富裕層と貧困層の格に関心があり、こうした問題を専門にした。在学中に経済格差の拡大を是正を見つけ出すことを目標に、現在は、経済のグローバル化が経済格差学んでいます。3年次春学期からは多レーシアへ留学して視野を広げ、よりみたいと考えています。

留学にもチャレンジします

差や国家間の経済格差学べるゼミを選択しました。自分なりの打開策教育と貧困問題の関に与える影響について様々な文化が混在するマ実践的な学びに取り組



3年次生
深谷 公紀さん

3・4年次 4コースへの分属、少人数のゼミで専門性を追求

マーケティングを実践的に学ぶため、商品開発と販売に取り組みました

フィールドワークを通してマーケティングを学ぶゼミに所属しています。私たちのグループは、野菜・果物の消費拡大をテーマに、30社ほどの企業にヒアリングを実施した上で、サラダ・ジュース専門店の方とともにコールドプレスジュースの商品開発と販売を行いました。購買層を意識して価格を設定するなど、商品開発と販売の難しさを実感しましたが、無事に目標販売数を達成。その結果を学外の大会で発表し、所属ブロックで優勝することができました。



4年次生
内藤 愛さん

キャリアデザイン

就職率

98.6%

男子

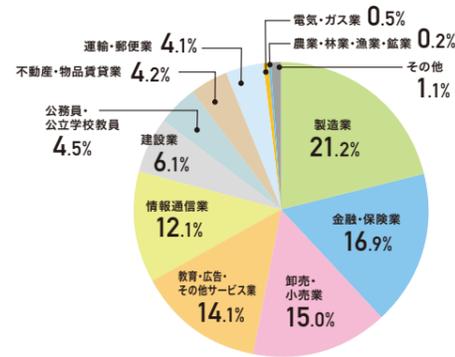
98.9%

女子

98.0%

経済学部の卒業生は、メーカーをはじめ、金融・保険、情報通信、公務員など多様な分野に就職しています。本学はキャリア支援に力を入れており、毎年1,200社以上の企業を学内に招きセミナーを実施しています。業界・企業研究セミナーに加え、一次選考も含めて学内で実施する単独企業セミナーなど、学生の興味・関心の幅を広げるプログラムを取り揃えています。

2019年度
業種別
就職状況



卒業生の主な就職先(2019年度実績)

製造業	伊藤園、伊藤ハム、エレコム、キーコーヒー、京セラ、キリンホールディングス、栗本鐵工所、KBセーレン、コカ・コーラ ボトラーズジャパン、資生堂ジャパン、ジェイテクト、スズキ、住友重機械工業、創味食品、大正製薬、大鵬薬品工業、武田薬品工業、ダイキン工業、大日本印刷、ダイハツ工業、椿本チエイン、帝人、テルモ、デンヨー、東芝テック、東リ、トヨタ自動車、凸版印刷、ナリス化粧品、ニチレイフーズ、ニッセーデリカ、ニプロ、日清食品、日本車輛製造、日本精線、日本製粉、日本電気、ハウス食品、パトライト、日野自動車、フジパルグループ本社、三菱電機、村田製作所、明電舎、森永乳業、山崎製パン、ユニチカ、六甲バター など	情報通信業	インターネットイニシアティブ、内田洋行、NECソリューションイノベータ、NTTデータMHIシステムズ、NTTドコモ、エリクソン・ジャパン、オムロンソーシアルソリューションズ、コナミホールディングス、JFEシステムズ、スクウェア・エニックス、スマセイ情報システム、宣伝会議、TIS、ティーガイア、DNP情報システム、トランスコスモス、西日本電信電話、ニッセイ情報テクノロジー、パソナテック、日立システムズエンジニアリングサービス、富士ソフト、富士通、読売新聞 大阪本社、楽天、楽天モバイル、リクルートホールディングス など
金融・保険業	三菱UFJ銀行、三井住友銀行、みずほフィナンシャルグループ、阿波銀行、池田泉州銀行、伊予銀行、関西みらい銀行、山陰合同銀行、滋賀銀行、住信SBIネット銀行、西日本シティ銀行、中国銀行、百十四銀行、三井住友信託銀行、山口フィナンシャルグループ、りそな銀行、全国信用協同組合連合会、あいおいニッセイ同和損害保険、住友生命保険相互会社、第一生命保険、東京海上日動火災保険、日本生命保険相互会社、SMBC日興証券、大和証券、みずほ証券、野村證券 など	建設業	積水ハウス、大和ハウス工業、タカラスタンダード、TOTO、LIXIL など
卸売・小売業	伊藤忠食品、岩谷産業、LVMHファッション・グループ・ジャパン、岡谷銅機、クラレトレーディング、コマツカスタマーサポート、生活協同組合コープこうべ、セブン-イレブン・ジャパン、高島屋、帝人フロンティア、トラスコ中山、日本アクセス、日本ハムマーケティング、ファーストリテイリング、富士ゼロックス大阪、山善、ヤンマーアグリジャパン、ルミネ、ローソン など	運輸・郵便業	ANA関西空港、上組、近鉄グループホールディングス、住友倉庫、全日本空輸、東海旅客鉄道、南海エクスプレス、西日本旅客鉄道、日本通運、日本郵政グループ、日本トランスオーシャン航空、東日本旅客鉄道、三井倉庫ロジスティクス など
教育・広告・その他サービス業	エイチ・アイ・エス、近畿日本ツーリスト関西、JTB、NTTファシリティーズ、GMOアドパートナーズ、JR西日本SC開発、パーソルキャリア、LDH JAPAN、ホリプロ、ザ・シンフォニーホール、堺市農業協同組合、国立大学法人京都大学、国立病院機構、日本年金機構 など	電気・ガス業	関西電力、四国電力、東京ガス など
		不動産・物品賃貸業	住友不動産販売、住友林業レジデンシャル、東急リバブル、三井不動産リアルティ、三井住友ファイナンス&リース、三菱UFJリース など
		公務員・教員	国家公務員一般職、国税専門官、労働基準監督官、大阪府職員、愛知県職員、新潟県職員、大津市職員、亀岡市職員、香南市職員、神戸市職員、奈良市職員、姫路市職員、枚方市職員、美作市職員、高知市消防吏員 など

※原則として業種別、50音順で記載しています

卒業生からのメッセージ

経済学部の卒業生は、国内外の経済を理論と実践から学んだ経験を生かし、幅広いフィールドで活躍しています。先輩方から、現在のキャリアに在学中の学びがどのようにつながっているかを教えてもらいました。

ビジネスにおいて欠かせない視点は、経済学にて養われたと実感しています



アマゾンジャパン 合同会社

2012年3月卒業
北山 綾真さん

新規の販売事業者様の開拓と販売サポートを担当

卒業後は証券会社で金融商品を取り扱っていましたが、小売業にとどまらず多様なサービスや技術を生み出しているAmazonに魅力を感じ転職しました。現在は「地球上で最も豊富な品揃え」という企業理念の実現に向けて、事業本部にて品揃えのさらなる拡大をめざしています。ビジネスには常に大局的な視点と局所的な視点の両方が重要であり、学部で学んだマクロ経済とミクロ経済が、マーケティングのベースになっていると感じています。

現在につながる在学中の学び

- 1年次 **マクロ経済学・ミクロ経済学を学ぶ**
お金の流れや市場のメカニズムに興味をもちました
- 3年次 **ゼミで統計を学び、株式市場を分析**
ゼミで統計学を深く学び、チャート分析を実施しました
- 4年次 **卒業論文の作成に没頭**
SNSの展望について卒論を作成し、仮説検証能力を磨きました

ゼミで学び行動したこと、たくさんの人との出会いが今の自分を形成しています



日本航空株式会社

2019年3月卒業
黒木 美佑さん

1年目は国内線に乗務し、2年目以降は国際線に乗務

客室乗務員の仕事の魅力は、お客様、乗務員などたくさんの方々と出会えることです。フライトの度に乗務員は変わりますし、もちろんお客様もさまざまです。自分のアイデアや会話でお客様を笑顔にできた瞬間にこの仕事を選んでよかったと強く思います。在学中にゼミで地方創生について学んだことが、お客様との会話が弾むきっかけになったこともあり、関西大学で得た幅広い知識と活動経験が、今の自分を作っていると実感しています。

現在につながる在学中の学び

- 1年次 **ミクロ経済学・マクロ経済学を学ぶ**
経済に関する基本的な知識と考え方を身に付けました
- 2~3年次 **ゼミ活動の一環で政策提言を行う**
現地調査を通して、地域産業の活性化について提言を行いました
- 3年次 **カナダで留学を経験**
多国籍文化のカナダでさまざまな人と交流し、視野を広げました

実現性の高い仕事ができるのは、在学中に数値の扱い方を学んだおかげです



三菱食品株式会社

2016年3月卒業
足立 華さん

ロジスティクス本部にて物流センターの運用改善を担当

より効率的に商品を出荷できるよう物流センターの運用方法を改善し、人件費などのコスト削減につながる仕事をしています。社内外の方と連携し業務を進める中で、運用改善案に納得して協力してくれた時や、改善によって作業員の負担が減ったと感謝されることがやりがいです。経済学部で数値を用いて物事を客観的かつ定量的に捉える手法を学んだおかげで、削減コストを計算したり、データを用いて交渉したりと、現実的で説得力のある仕事の進め方ができています。

現在につながる在学中の学び

- 2年次 **社会・経済の問題を英語で学ぶ講義を受講**
英語の運用能力を高めるように努めました
- 3年次 **学外のゼミナール大会に複数出場**
他大学のゼミの発表を聞き、研究意欲を刺激されました
- 4年次 **卒業論文の作成**
「若者の百貨店離れ」をテーマに、学生にアンケート調査を実施しました

在学中に現場の声を聞いた経験が、現在の仕事につながっています



関西テレビ放送 株式会社

2012年3月卒業
泉谷 賢一さん

記者として報道局報道センターに勤務

事件や犯罪、自治体の取り組み、地域の最新の話題など、さまざまな情報を集めて取材を行い、得た情報を視聴者に伝えています。この仕事をめざした理由は、何かに困っている人の悩みや状況を、電波を通して多くの人々に訴えかけることができると考えたからです。在学中はゼミ活動を通して実際に商店街などを訪ね、街の方々と話を聞くことの大切さを学びました。記者という職業の基本も、現地に行って取材をすることであり、大学時代の経験が今に直結していると実感しています。

現在につながる在学中の学び

- 1年次 **ミクロ経済学・マクロ経済学を学ぶ**
世の中の経済の動きについて、興味をもちました
- 3年次 **全国プレゼン大会に出場**
地域経済をテーマに地元商店街を取り上げ、店舗に話をうかがいました
- 4年次 **卒業論文の作成**
「障がい者の雇用」をテーマに、ヒアリングをしながら研究しました